

## 巻頭言

グローバル人材育成教育学会 学会誌編集委員長 糸井重夫

2020年春以降、世界では、新型コロナ・ウイルス感染症が拡大し、国家間の人の移動が制限され、国内においても外出制限を実施する国が増えるなど、対面によるコミュニケーションが難しい時代になっています。この人の移動の制限は、海外の大学等に留学させて現地の人たちとの交流や研修プログラムを通じて、グローバル人材に求められる能力や態度を育成する従来型の教育手法の展開を困難にし、多くの大学ではオンライン（遠隔通信）による交流を進めています。

遠隔通信による交流プログラムは、留学などによる対面型の交流プログラムに代替するプログラムとして導入され、その多くが昨年度からの実施ですので、現在その検証が進められているところだと思います。しかしながら、遠隔通信を単なる対面型交流プログラムに代替するのではなく、遠隔通信プログラム自体に有効性を見出し、対面型交流プログラムを補完する取り組みとして位置づけ、コロナ終息後も遠隔通信と対面を組み合わせたプログラムの開発を進める動きも見られます。グローバル人材育成の観点からは、異文化と多様性に富む海外に行き生活し、自分の目で見て体感し、現地の学生と切磋琢磨することで得られるコンピテンシーを高めることが重要と考えます。しかしながら、海外留学の前段階や帰国後のフォローアップとして遠隔通信を効果的に活用することは意味があると思います。さらには、遠隔通信プログラム自体を、留学等の対面型のプログラムとは異なる一つの完結したプログラムとして位置付ける取り組みも出てきています。

このように、教育現場では遠隔通信が新たな教育手法と位置付けられつつありますが、学会活動においても多くの学会で遠隔通信での全国大会や支部大会が実施されています。本学会においても遠隔通信での全国大会や支部大会は実施されていますが、インターネットを介することで開催地の距離に関係なく多くの会員がアクセスできるようになり、海外の研究者を招いての開催もしやすくなるという面があります。今年（2021年）7月に開催された北海道支部大会は、北欧スウェーデンのストックホルムと遠隔通信でつないで実施されましたが、遠隔通信を活用することで、私たちはこれまで以上に様々な国の取り組みを知る機会を得ることができます。また、本学会内にも「国際交流委員会」が設置されましたが、今後は海外の会員の確保を通じて、海外からの実践報告や海外支部の設置などの展開も期待されることです。

以上のように、私たちは遠隔通信というコミュニケーション・ツールを得たわけですが、コロナ終息後もその活用は継続するものと考えられます。本学会の学会誌担当としましては、従来型の留学等の対面によるグローバル・コンピテンシー育成教育の実践報告に加えて、今後は、遠隔通信での独自プログラムの実践報告や、遠隔通信と対面を組み合わせたプログラムの開発とその成果の報告が増えることを期待します。また、学会活動についても、両者を併用したハイブリッド型の国際大会の開催や、「教育連携部会」を核とした海外の初等・中等・高等教育を含めた連携など、様々な面で遠隔通信が効果的に活用されることを期待します。

（松本大学 松商短期大学部 教授 糸井重夫）